

社会教育主事有資格教員の活動事例

3 先進事例に学ぶ

3 仙台市嘱託社会教育主事制度

★仙台市教育委員会が、市立学校に勤務し社会教育主事の資格を有する教員に対し社会教育主事の職務を委嘱する制度。教員が学校教育に携わりながら、休日などを利用し社会教育主事としての専門性を発揮している

【活動の概要】

仙台市の嘱託社会教育主事制度は、仙台市教育委員会が、市立学校に勤務し社会教育主事の資格を有する教頭、教諭に対し社会教育主事の職務を委嘱する制度で、昭和46年より実施されている。委嘱された社会教育主事は、学校教育に携わりながら社会教育主事の専門性を発揮し、社会教育活動を推進している。

嘱託社会教育主事の業務は次の通りである。

1. 青少年の地域活動や社会参加についての指導、援助および促進
2. 地域における社会教育関係団体の育成および援助
3. 学校、公民館その他教育機関や社会教育関係団体が行う社会教育事業への協力
4. その他社会教育の振興に関すること

具体的には、校務分掌では「総合的な学習の時間」、PTA 活動、学校施設開放、地域連携等を担当。学校と地域のパイプ役として町内会や市民センターとかかわっている。

学校外では、自分の勤務する学校区内にある市民センターと協力して、体育振興会等で活動したり、各區市民センターと嘱託社会教育主事研究協議会との共催で、子ども会インリーダー研修会等の事業を企画し実施している。さらに、市の生涯学習課の実施スタッフとして小・中学生のキャリア教育や成人式の運営などにもかかわっている。また、各區ごとに嘱託社会教育主事同士で必要と思われる研修を随時行うことで、経験の少ない嘱託社会教育主事でも事業で活躍できるよう工夫しており、加えて仙台市の校長会も各地区ごとに顧問という立場で嘱託社会教育主事の活動を支援している。

校務での多忙な合間を縫いながら、30歳代から教頭職までの幅広い年齢の教員が協力して、地域に根ざし、地域の声を聞きながら活動することで、社会教育を進める大きな力になっている。

嘱託社会教育主事の配置状況（平成18年度）

	総数	配置校数
小学校	129	83（全123）
中学校	35	23（全63）
高等学校	3	3（全6）
計	167	109（全192）



子ども会インリーダー研修会で講師を務める嘱託社会教育主事